

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成21年(2009)大会号



「ふとふり返ると 近藤喜文画文集」(徳間書店)より 説明文14ページ

新潟県立村松高等学校東京同窓会

第52回定期大会に臨んで

大会実行委員長 杵淵 政海（高2回）

今年も、東京同窓会の定期大会を迎える日が来ました。52回になるこの伝統ある同窓会を、半世紀以上に亘り継続して開催することが出来るのは、我々の大きな誇りであります。中々見当たらない大挙であると、第三者の評価もいただきました。諸先輩や同窓の諸兄姉が、誠心誠意努力を重ね協力されてきた成果であり、心から敬意を表し感謝するところであります。

これからも同窓生一同が更に力を合わせ、今までの結束を確実なものとし、あとにつなげていきたいと願っております。

誰しもが故郷を懐かしみ、育んでくれた山、川、町を想い、共に学んだ母校を愛し思いを致すのは、ごく自然

な姿ではないでしょうか。一年に一度のこの同窓会で、仲間と愉快に語り合い、更に大きな輪に拓がるよう育てて行こうではありませんか。

この度の大会の運営に当たっては、若手を中心となり、活躍してくれました。みんな気力が充実し、張り切っております。同窓会の活動の中心が、世代交代の時期を迎えているように思います。どうか皆さんのご指導、ご鞭撻と共に絶大なご協力をお願いするものです。

今回も多くのご参加を得ることが出来ましたことに、実行委員一同厚くお礼申し上げます。越後人の心底にある“義”を重んじ“何苦楚魂”を失わず、この乱世にしっかりと創造力を生かし、切り開いていきましょう。

東京同窓会 第52回定期大会 プログラム（敬称略）

日時 平成21年7月4日（土）正午開会 会場 KKRホテル東京 10F「瑞宝の間」

第一部 総会 一司会・進行― 青木 敏和（高18回）、林 信子（高25回）

- 1 開会のことば・・・・・・・・・・・・・実行委員長 杵淵 政海（高2回）
- 2 東京同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・会 長 鈴木 多喜男（高4回）
- 3 村松高等学校同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・会 長 相田 豊（高9回）
- 4 村松高等学校長あいさつ・・・・・・・・・・・・・校 長 小形 賢治
- 5 議 事
 - （1）平成20年度委員会活動報告
 - ① 総務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 郡司 正大（高16回）
 - ② 財務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 塚田 勝（高8回）
 - ◎会計監査報告・・・・・・・・・・・・・監 事 佐久間 英輔（高6回）
 - ③ 広報委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 大橋 貞夫（高10回）
 - （2）その他
- 6 閉会のことば・・・・・・・・・・・・・実行副委員長 吉井 清（高8回）

第二部 落語家独演会

柳家 さん吉 師匠

第三部 懇親会 一司会・進行― 青木 敏和（高18回）、林 信子（高25回）

- 1 開会のことば・・・・・・・・・・・・・司会者
- 2 乾 杯・・・・・・・・・・・・・副会長 斉藤 和男（中33回）
- 3 お楽しみ抽選会・・・・・・・・・・・・・幹 事 山田 俊治（高14回）・他
- 4 校歌・応援歌・・・・・・・・・・・・・参加者全員
- 5 手締め・・・・・・・・・・・・・幹 事 篠川 恒夫（高2回）
- 6 閉会のことば・お開き・・・・・・・・・・・・・司会者

平成20年度 東京同窓会の動き

- | | |
|--|--|
| 4月19日(土) 編集会議
13:00 新潟県人会館 | 9月13日(土) 幹事会
14:00 新潟県人会館
・52回大会について
・役員及び今後の活動について
・名簿について |
| 4月19日(土) 幹事会
14:00 新潟県人会館
・会員拡大のための案内状発送作業
1110通(メール便)
・51回大会の通知準備について
・その他 | 10月11日(土) 編集会議(会報46号)
13:30 新潟県人会館 |
| 5月14日(水) 第一印刷へ平成20年大会号
No. 45号の原稿送付 | 11月14日(金) 会報46号原稿を第一印刷へ |
| 5月17日(土) 幹事会
13:30 新潟県人会館
・51回大会案内状等の発送作業
・51回大会の役割分担について
・その他 | 12月27日(土) 幹事会
14:00 新潟県人会館
・会報発送420通(メール便)
・幹事会・52回大会の件
・幹事会終了後忘年会開催 |
| 6月21日(土) 東京同窓会51回大会
12:00 KKR ホテル東京
出席者総数97人
会報配布数100通 | 2009年
2月07日(土) 編集会議(会報47号)
13:00 新潟県人会館3A
平成21年大会号の編集方針 |
| 7月05日(土) 幹事会
13:00 新潟県人会館
・会報発送通、
・51回大会総括
・その他 | 2月07日(土) 幹事会
14:00 新潟県人会館3A
・52回大会について
司会者、アトラクション
・実行委員会 |
| 9月13日(土) 編集会議(会報46号)
13:30 新潟県人会館
平成21年新春号の編集方針 | 3月28日(土) 編集会議(会報47号)
13:00 新潟県人会館3A
・編集方針、原稿の確認等
・その他 |
| | 3月28日(土) 幹事会
14:00 新潟県人会館3A
・第52回大会の件
・その他 |

柳家さん吉師匠のプロフィール



本名はくれいまさお樽井昌夫 昭和13年、旧村松町の木曾屋(酒屋)の四男として生まれ、愛宕中学2年生の秋に上京。
 昭和32年 柳家小さんこふみに入門 前座名 柳家小二三
 昭和33年 上野鈴本演芸場にて初高座・演目は道灌
 昭和35年 ニツ目昇進 柳家小三郎
 昭和37年 改名 さん吉
 昭和48年 真打となる
 受賞歴 昭和58年度 文化放送賞受賞
 ・日本テレビ 元 笑点レギュラー
 ・テレビ東京 アイラブ フルーツ
 ・テレビ東京 お助け同心が行く
 ・文化放送 出前寄席で18年4ヶ月司会をしていた
 ・その他 TVCF、ラジオCM等に出演
 ・自己PR 剣道三段



ありがとうございました

①平成20年度・会費納入された方々(敬称略)

◎旧中の部(10名)

五十嵐一郎、伊藤勇五、斉藤和男、佐藤豊夫、千代国一
寺田徳隣、成海正弘、松尾 貢、武藤三郎、横松宏平

◎高校男子の部(130名)

青木敏和、浅見祐治、畔田昭義、阿部 勇、安部 實
新井康夫、新井三郎、安中信夫、安中幸男、五十嵐丈郷
石川 滋、石黒四郎、石黒勝夫、石本芳雄、伊藤昌夫
伊藤隆造、稲毛越郎、今井貞夫、今井英雄、岩野忻史
大江勝司、大江卓久、大橋貞夫、小黒正恒、小黒雅晴
小野塚孝也、蠣崎福次郎、笠原静夫、梶屋庄佑
加藤喜七、金子鶴男、金子健二、川合敏男、川上博満
川村莞爾、神田栄俊、杵渕政海、木村寿一、桐生光憲
熊倉富次、熊倉道雄、熊倉芳夫、雲村俊雄、倉田健五
郡司正大、剣持常泰、小出博三、小日山芳栄
小鍛冶直昭、小柳 実、近藤尚志、近藤洋輝、斎藤正義
斎藤 豊、酒井俊昭、坂上卓夫、坂上三夫、佐久間英輔
篠川恒夫、佐々木秀三、佐々木秀和、佐藤栄治、佐藤 克
佐藤信三、佐藤 起、佐藤良平、澤井 昭、澤出起允
下野文幹、新保 優、杉本芳男、杉山 喬、鈴木健司
鈴木多喜男、鈴木忠雄、鈴木輝雄、関塚 豪、関谷雄二
瀬倉 薫、瀬倉武志、高岡英治、高岡光夫、高岡雄三
高地 彰、高地 勝、高橋 隆、高山幹雄、滝沢義則
塚田 勝、辻川 登、坪谷次郎、中嶋久巳、中川善隆
中村雅臣、二宮文三、根本俊夫、羽賀道信、長谷川吾一
長谷川五郎、長谷川洋夫、服部修治、林 敬直、
原 高志、原田 實、堀 直昭、堀川俊郎、増田訓英
松尾一広、松尾保司、松尾正春、間藤謙一、丸山貞次
水戸 勉、宮沢正由、武藤 寛、武藤正昭、村川恭平
村川五郎、村川忠司、八木又一郎、柳川芳彦、築取正道
山崎輝雄、山崎豊吉、山田俊治、吉井 清、吉井 稔
渡辺八郎、渡辺嘉樹、小川 良

◆平成21年度分会費前納者名

新井三郎、高岡雄三

◎旧高女の部(8名)

一氏愛子、小林早月、近藤昌子、佐藤 治
佐藤玲子、鈴木節子、田村ミツエ、藤崎トヨ

◎高校女子の部(50名)

安達繁子、荒井るり子、安中克子、飯利 幸
五十畑キヨ、五十嵐八端、伊藤起子、大島エミ
大野靖子、緒方康子、岡部ユキ、小沢幸子
片柳ムツ、神田正子、木村孝子、久我マキ、熊倉マサ子
小島典子、佐々木恵美、雑賀和子、佐藤綾子、佐藤八重
白石キヨ、鈴木則子、鈴木雅子、高尾桂子、高岡五百子
高浜つる子、田川百合子、出口テル、寺山征子
徳永道子、中島和子、中村俊枝、波多ミサエ
波多野紀子、林 信子、広瀬満子、深見洋子、星野孝子
増田京子、升本久子、松本知子、真水道子、三宅紀子
向山律子、森田勝美、山岸もと子、山西愈佐子
渡辺厚子

平成20年度会費納入者数

男子=140名 女子=58名 合計=198名

②平成20年度・寄付された方々(敬称略)

◎男子の部(4名) 金額=8,000円

2,000円 横松宏平、武藤三郎、小日山芳栄
佐々木秀三

◎女子の部(1名) 金額=2,000円

2,000円 緒方康子

◎同窓会本部より活動費助成30,000円

合計金額 40,000円

お願い

住所等を変更された場合、ご面倒でも速やかに
事務局までご連絡をお願い申し上げます。

新潟県立村松高等学校

東京同窓会 事務局

〒201-0005 狛江市岩戸南 2-14-14

Tel & Fax 03-3488-2117

事務局長 石黒 四郎(高9回)

平成20年度会計収支決算書

(平成20年4月1日より平成21年3月31日)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位: 円)			支出の部 (単位: 円)		
特別会計			特別会計		
第51回大会収入 (No46 既報)		830,000	第51回大会支出 (No46 既報)		871,705
一般会計			一般会計		
1	20年度会費 (196名×3,000) (内1名は1,000円不足) 男子 138名 (内1名は2,000円納入) 女子 58名 計 196名+2名=198名 2名は前納に付き前年に処理済み	587,000	1	51回大会 補填	41,705
			2	会議費 (幹事会・広報委員会) 幹事名簿作成	59,150 4,560
			3	会報発行関連費 NO45印刷代 (500部) 会誌用封筒 (含印刷代) 発送費 (メール便・郵送) NO46印刷代 (500部) 会誌用封筒 (500部) 発送費 (メール便・郵便)	364,965 127,725 16,275 34,070 128,100 16,275 42,520
2	平成21年度分 (前納) 男子 2名	6,000 6,000	4	宅配・郵便等	8,650
3	20年度 寄付金 会員男子 4名 会員女子 1名	10,000 8,000 2,000	5	通信費 封筒 ハガキ・往復はがき コピー代	67,823 3,338 60,205 4,280
4	同窓会本部 (活動費助成)	30,000 30,000	6	年会費振込手数料 現金書留・振込手数料 振り込み用紙印字代	12,840 800 1,100
5	利子	984 984	7	対応費 (交際費) 県人会賛助会費 本部総会対応費 (参加2名)	90,000 20,000 70,000
			8	会員拡大関連費用 会員拡大・案内・アンケート 印刷1110通 宛名シール印刷・用紙等 発送 (メール便・郵便)	188,700 75,300 22,280 91,120
			9	諸雑費 消耗品等 封筒・ラベル・ インクトナー その他	21,687 6,433 13,270 1,984
20年度収入合計		633,984	20年度支出合計		861,980
平成19年度から繰越 郵便貯金 現金		1,012,552 999,772 12,780	平成21年度へ繰り越し 郵便貯金 現金		784,556 749,816 34,740
合 計		1,646,536	合 計		1,646,536

上記の通り報告致します。

平成21年5月3日

東京同窓会長 鈴木多喜男 ㊞

財務委員長 塚田 勝 ㊞

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。 平成21年5月3日 会計監事 佐久間英輔 ㊞

臥龍を見ました

松尾 貢 (旧中29回)

臥龍を見たのは2001年の秋です。2008年5月に発生した中国四川大地震があった処で、臥龍も大被害を被ったと報じられています。テレビに登場していましたが、ここにパンダ繁殖センターがあります。倒壊家屋の下敷きになってパンダが1頭死に、1頭は山へ逃げて行方不明とも報じられていましたが、険峻な山で捜索は困難でしょう。村松の臥龍が丘は子供でも楽に登れますが、臥龍の山は険峻で大人でも困難です。V字峡で両岸は2、3千メートル級の岩山です。

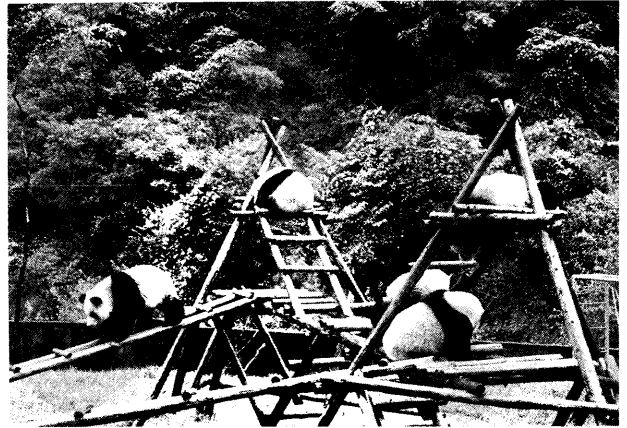
四川省(蜀の国)の省都である成都から北西へ高速道路で小1時間行きますと都江堰です。ここは先の地震で小学校の1階が潰れ、多数の児童が犠牲になった町です。ここから北は険峻な山々が連なる珉山山地で、ここが震源地だそうです。そこから流れ出る大河を珉江と云い、重慶の遙か上流で長江に合流します。都江堰は字が示す通り河に堰の有る町で、珉江の水を四川盆地へ引き込む大規模な水利施設を2千年以上の昔に造り、現在も立派に機能していますが、地震の被害は軽微で済んだようです。この施設と難工事を成功させた親子を祭る二王廟等が世界遺産に登録されていますが、被害は大きかったようです。ここでガイドの説明を聞いている最中、10メートル位先に頭より大きい石が2ツ転がり落ちて来てギョッとした、そんな急峻な山の麓です。

都江堰からは珉江沿いのV字斜面に強引に作った山岳道路を上流へ向かいます。1時間ほど行った処に映秀の街があり、ここも震源の一部だったそうです。今日でも倒れた建物がそのままにされ、住民はこの土地を放棄してしまいました。河の合流部の僅かな平地に立錐の余地も無く造った街は、一たまりも無かったようです。

この街から左の西方向へ支流に沿って小1時間走った処に小集落の臥龍があります。この辺もV字峡谷で、僅かな河岸段丘にホテルと少々の住宅とパンダ繁殖センターがあります。都江堰からの途中で車の事故があったらしく、V字峡谷の1本道では如何ともし難く、ホテルへ着いて遅い夕食を済ませ就寝したが、窓の外は灯り一つ無い暗闇で、不気味な臥龍の一夜でした。

翌朝、小雨の中をパンダセンターへ行くと丁度朝食時間で、盛んに笹の葉を食べているところでした。数十頭の成獣から幼獣が年令別に区分けされて居て成獣は舎屋に、青年期のパンダは高さ2メートル位のコンクリート塀で囲った屋外の自然の傾斜地で、木登りしたり寝転んだり自由に遊んでいました。青年期の一頭にリンゴを食べさせ、椅子に並んで記念写真を撮ってきました。温和しくて実に愛らしいものです。センターを他所へ移転すると報じていたので、あそこにはもう居ないかも知れません。この辺までは緑が多く、パンダの好物で丈の低い

笹竹も沢山自生しています。雨が止み、霧が急斜面の蒼蒼とした木々を這い登る様子は、正に龍が天に昇って行く様でした。



臥龍パンダ繁殖センターの子供パンダ 01.9.29

臥龍や映秀など珉江流域から北西甘肅省青海省までの全域は、アバ チベットゾク チャンゾク自治州である。臥龍辺は漢族、チャン族が多く住み、珉江上流域はチベット族の住居地域となり、住宅様式や服装で判ります。

映秀へ戻り、珉江沿いの1本道を上流へ走るとV字の大峡谷が続く。道路にはトンネルが無く、急斜面に素堀の穴を掘って谷側は全面開けてあり、半トンネルとでも云うのでしょうか。天井も壁面も岩が剥き出しのままで、車の振動で岩が落ちないかとハラハラして乗っていました。この地域はテレビでも放映されたが、灌木だけで裸山同然です。珉江は濁流となって岩を噛み、対岸に渡る術は兩岸に張ったワイヤーに滑車付きロープに命を託して滑って行く方法です。過去には観光バスも転落したそうですが、谷底まで転落した車は放置されたままで、道路の谷側にコンクリートブロックが点々と置いてあるだけでガードレールは無く、本当に不気味でした。珉山山地は地震の巣で過去にも大地震があつて、珉江に大規模な堰止め湖があります。大量の岩石が落下した自然の堤防は高さ数十メートルに及び、濁った湖面には観光船でしょうかモーターボートが走っていました。



珉江の堰止め湖 01.9.29



珉江は急流続きで、所々に小規模の水力発電施設が造つてある。川岸に水路を2～300メートル造ると、数メートルの落差が得られるのです。汶川とか茂県とか地震報道にも出た街があり、上流なのに両岸の山が徐々に後退して平地が多くなり、松潘と云う城門が残る街もあります。この辺はチベット族の住む処となり、山野に羊やヤクの姿が見られ、馬に乗って闊歩する娘さん達にも出会います。対岸に数キロメートルも続く平坦な河岸段丘があり、ここに滑走路を造ると聞きました。旅行案内によると、既に九黄機場として使用しているようです。珉江の源流地は草原ですが、4千メートルの峠の分水嶺を越えて行く処に、世界遺産に登録された黄龍と云う景勝地があり、更に奥の別の谷に九寨溝と云う景勝の世界遺産があります。これからの観光客は新空港を利用できるので、危険な峡谷を1日ばかりで走ることも無くなり、安全に大きく時間短縮が出来ます。



山崩れで交通遮断、来た道を引き返す 01.10.2

私達は珉山山地の東側の谷を下り、綿陽へ泊る予定でした。九寨溝から谷の1本道を3～40分位走った処で地震もないのに山崩れが発生し、大量の土石で道が完全に遮断されていました。上流、下流側も車が列をなし、この光景を見て運転手と添乗員の判断良く、手前の小さな広場で停車、直に来た道を引き返す。ホテルで小休止している間に青都のホテルを確保して貰い、珉江沿いの危険な道をひたすら走り続けた。青都のホテルに到着したのは夜10時頃で、事故も無く1人でハンドルを握り続けてくれた運転手には全員が感謝の拍手喝采をし、お互いの無事を喜び合いながらホテルへ入りました。



臥龍パンダセンターで一緒に記念写真を撮った可愛いパンダを、今でも時々想い出すことがある。

01.9.29 撮影

続 魚・肴・さかな

加藤 清治 (高4回)

平成20年の総務省発表によれば日本人の平均寿命は、男性79.19歳、女性85.99歳で男女共に過去最高を更新した。厚生省はこれについて次のように分析している。「日本人の三大死因である癌、心臓病、脳卒中の治療成績が向上したことが平均寿命の延びに影響した。今後この傾向は続くだろう。」と

人間はいったい何歳位まで生きる事が可能だろうか？この疑問に対し多くの学者は、120歳位までは可能としている。しかし、それはあくまでも病気や過酷なストレスから逃れることによって可能な理論値で、殆どの人はこの年までは生きられない。因みに世界の長寿ベスト3は次の通りである。

男 性		令 年	女 性		年 令
1位	アイスランド	79.4	1位	日本	85.9
2位	香港	79.3	2位	香港	85.4
3位	日本	79.1	3位	フランス	84.1

さて食べ物で一番クサイ物はと問われたら皆さんは何を挙げますか？くさや？酒盗？それとも納豆？・・・私なら迷わず鮎ずしを挙げる。ここに出て来た物は何れも日本の発酵食品で、欧米人が敬遠する日本食品と大枠で一致する。鮎ずしの鮎はニゴロブナと言われる琵琶湖の固有種で、環境省は絶滅の恐れがあるとして「レッドリスト」に加えている。かつて400トン以上あった漁獲量が近年では30トン程にまで激減している。漁獲量の減少は湖岸の開発による産卵場所の減少、水質汚染、外来魚による駆逐等が考えられる。幸な事にここ数年は漁獲量の減少に歯止めがかかり、地元業者や一部の食通が喜んでいて聞く。この鮎ずしを初めて食べ、その臭気にむせる人もいて「二度とゴメン」との声を聞く一方で、ヤミツキになる人が少なくないのも確かである。東京農大の小泉教授によれば、スウェーデン名物の「シュールストレッシング」はニシンを発酵させた物で、鮎ずしの16倍もの臭気を発するスグレモノだそう。

話は変わるが、昨年9月に水産庁と水産総合研究センターが太平洋のマリアナ諸島西方で親うなぎの捕獲に成功したと発表した。ご存知のようにうなぎの生態には謎が多く、産卵場所や回遊ルート等は未だ不明である。成熟した親うなぎが海洋で捕獲されたのは世界で初めてであり、うなぎの生態解明や稚魚(シラスウナギ)の量産につながるものと期待される。日本うなぎの仔魚(レプトセパルス)は、太平洋で孵化すると北赤道海流に乗り、フィリピン沖で黒潮に乗り換えてアジアの国々に向う。この段階で木の葉状の体形を河川の移動に適した細長い形に変え、シラスウナギとなり河川を遡上する。

養鰻業者は、シラスウナギを池で肥育して出荷する。海岸や河川で捕獲を免れたシラスウナギは内水面で成長し、3～4年後の秋に鮭とは逆に産卵のため海に還る。

高4回生・東京地区「お花見と懇親食事会」 鈴木 健司 (高4回)

表題の恒例行事を、4月9日に実施いたしました。

『新宿御苑』新宿門入り口に午後2時、男女合計17名が集いました。お天気は快晴で気温も快適でした。誠に結構な好日に、「日頃の善行が天の思召しに叶ったのでしよう」と誇らしい気持ちになりました。

ソメイヨシノ・チョウシュウヒザクラが満開、それより早咲きのカンザクラ・ヒガンザクラ・オオシマザクラなどが花弁を散らしていました。ウコン・ヤエベニシダレ・ギョイコウ・フゲンゾウなどは、満開・五分咲き・咲き始めなど、様々な状態で私達を出迎えてくれました。



新宿御苑にてお花見会 H21年4月9日

「さまざまの 事おもひ出す 桜かな」 松尾芭蕉
「清水へ 祇園をよぎる 桜月夜」

こよい逢う人 みな美しき 与謝野晶子

新宿御苑は桜が多品種のうえ、ヤマブキ・ハナミズキ・スイセン・ムラサキハナナなど他の花々も結構あり、それ等の彩りの調和がすばらしく、また花盛りの期間も長いのが特色で、春の「お花見」には、絶好の場所ですね。新宿門から大木戸門へ抜け、地下鉄で「虎ノ門」に移動し、『レストラン立山』で午後4時から「懇親食事会」の運びとなりました。参加者は総勢で24名でした。午後5時半に散会とし、女性10名はそのまま別室で「お茶会」に移行され、2時間以上のおしゃべり会となったそうです。男性の有志11名は、新宿「パイラスクラブ」で2次会となりました。

また、次の機会に一同元気にお会いいたしましょう。



懇親食事会 於「レストラン立山」H21年4月9日

江戸を歩く会と私

酒井 俊昭 (高5回)

59歳で退職後、請われるままに全農や種苗会社で働いて、本当に仕事を止めたのは70歳になる直前だった。退職後も父の亡き後、独り住まいをしている母(95歳)の面倒を見るため、村松で過ごす日々が多くなった。

そんな理由で金子鶴男君から「江戸を歩く会」の案内を頂いては居たが、私の初参加は2004年の神楽坂歩きからだった。12月17日1時半、飯田橋駅に集合した参加者は15名。飯田橋界隈の石組みを見て神楽坂界隈を歩いた。歩くにつれ雲村俊随君の脚の速さと説明の詳しいのに驚く。それもその筈で、江戸を歩く会の会長として月に5回は主催し、通常150名の参加があるそう。その折には3人のお弟子さんに説明を任せる。それを直接本人から聞けるのだからこんな贅沢な事はない。

この日は一巡して「論」という居酒屋で会食。歩くのも良いが、その後で飲み交わすのも欠かせない楽しみだ。その証に一足早くやって来て「遅いじゃないか」と云いたげな常連組みも居たが、初参加と云うことで乾杯の音頭とりの栄誉が与えられた。

その後は06年7月・四谷、9月・品川、07年3月・隅田川、9月・江戸城、12月・日暮里、08年1月・両国、8月・等々力と参加し、今回09年2月20日に催された赤坂見附の例を述べてみる。

当日は冷たい雨模様の中、申込者15名が14:00に赤坂見附駅に集合。雲村君の短い説明の後に外堀通りを渡って直前の日枝神社へ。「あの階段を上るくらいならパスしたい」などと弱音も聞えたが、その脇にエスカレーターがあり全員ホッとして境内に。ここで2年に一度、6月に行われる喧嘩祭りは必見との事。また、境内には「君が代」に歌われる「さざれ石」が置かれていた。



日枝神社本殿前にて

外堀通りを戻り浄土寺の地藏菩薩を拝顔して三分坂へ。坂を下った処にある雷電為衛門の墓で、我が手の倍もある手形に驚愕。その先の転び坂を下って冰川神社(1730年まで浅野藩屋敷)に参拝。近くの勝海舟屋敷跡を見てから南部坂を下り久国神社へ。六本木通りの地下道

を潜って緩やかな坂を上る。霊南坂教会、大倉集古館を経て霊南坂を下る。突然の武装警官に驚いたが、先日まで米大使館に滞在したクリントン国務長官の警備であった。塩見坂を経て消防会館内にある義士洗足の井戸、金毘羅宮の4獣の鳥居を見てこの日の見学を終えた。

下り坂になるようなコースを注意深く選んだとの事であるが、全長4.5 kmの少し脚にくる距離ではあった。雲村会長が何回も通って厳選した飲み放題の店「升本」に到着し、今回は4月1日に決まり、さあ！飲み方始め！終わったのは7時だった。

老いる

佐藤 八重 (高3回)

「おはようございます。わ・た・し、愛子よ〜。」朝の早い電話は苦手の私も、あの独特な口調と少し甲高い声には、眠い目もパッチリと冴える。この声は、今年94歳になる叔母さんで、亡き姑の弟の奥さん。

20数年前に夫を亡くし、それ以来気ままな1人暮らしを続けていたが、今では、息子一家の住む房総半島の静かな町のケアハウスで余生を過している。叔母さんの名前は「愛子さん」。皇太子にお子様が生れた時、自分の名前と同じだったことが余程嬉しかったらしく、年甲斐も無くはしゃぐところなど、幾つになってもあどけなさの残る可愛いお年寄り。それに、おしゃれ心はいつまでも失わず、可愛い化粧ポーチには、いつも小さなお化粧道具が詰まっている。大勢いる優しい孫達のプレゼントらしい。結婚するまで小さな町に育った私など、初めて会った時から都会的な香りが漂ってくる叔母さんに、羨ましさと同時に憧れを持つことさえもあった。

ところが、90歳を過ぎた頃から少しずつ老いの兆しが見え隠れし始めて来た。

ある日、都内に住む娘のY子さんと2人でケアハウスへ遊びに行った時のことだった。珍しく主任さんに呼ばれ、少し認知症の気があることを告げられた。まだまだ1人暮らしは大丈夫だけれど、これ以上進行させないよう予防も兼ねて毎日、薬を1錠ずつ服用していることも知らされた。自然の老いか、初期の認知症かの判断など、素人の私達にはなかなか難しいのでそっと見守り、ケアハウスの方々に任せすることにした。そう云えば、今朝の電話だって、ずっと会っていないような口振りだった。もしかしたら1ヶ月前に会ったことを忘れているのだろうか、嫌な予感がしてきた。

今年3月の始め、好物の桜餅とお年寄りに人気の「お喋り人形」をお土産にケアハウスを訪ねた。部屋の中はなんとなく雛祭りムードが漂っていた。1輪挿しには桃の花。雛祭り用の短冊までが柱に飾られていた。何十年も俳句を趣味として来ただけに、日本の四季折々の行事などには関心が深い叔母さんらしい。私の持参した桜餅は、先ず仏壇に供えられた。1人暮らしの心の拠り所は、

やはり小さな仏壇の中の夫らしく、所狭しとお供え物がしてあった。

写真の中の叔父さんが、「2人とも、年をとったものだねえ。」と笑っているような気がしてきた。大きな写真の中の叔父さんは、昔のまま。兄の親友であり、その上9歳も年上の夫。「お父さん」「おとうさ〜ん」と甘え、「愛子」「愛子」と名前を呼ぶモダン夫婦だった。まさか、あの愛おしい妻が長生きして、軽度といいながらも認知症なんて宣告を受けたことなど、叔父さんは知る由もない。

10年ほど前、叔母さんと2人で北鎌倉を散策したことがあった。ちょうど東慶寺の紫陽花が満開で、帰りの電車の中では俳句作りに余念がなかった。あの頃が懐かしく思い出される。最近はケアハウスを訪ねてみても、あんなにたくさんあった俳句の本が1冊も見当たらない。興味が失われてしまったのかも。

誰にでも必ず訪れるであろう「老いの日」。解っていながらも、あの憧れだった素適な叔母さんの老いて行く姿を目の当たりにして、私の心の中には複雑なものがある。

小出博三氏の油絵展にて

3月1日(日)〜7日(土)までの間、小出氏(高8)の第11回油絵展が、有楽町の東京交通会館 B1(シルバーサロン A)にて開催され、3日には7〜8名の同窓の方々が来場され、楽しく鑑賞されて居たとのことです。

今回は特に奥入瀬溪谷の作品が4〜5点あり、自然の息吹とオゾンが身体一杯浴びているように感じ、爽やかな一時を過ごせました。ご来場の皆さんはどの絵を観ても、明るく素朴な印象と爽やかな心地よさを感じとられたに違いありません。

大勢の同窓の皆様には是非とも会場へ足を運んで戴き、ゆっくりとご鑑賞されますようお願いいたします。

小出氏の油絵展は今回で11回目を迎えられ、各地に出かけられての製作意欲が、益々旺盛であるように見受けられました。今後とも同窓の皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。 広報 大橋 記



3日に訪れた同窓の方々と小出氏(右端)

郷土の偉人 前島 密先生の恩恵

石黒 勝夫（高14回）

はじめに

人生は、ひよんなことで縁ができ、恩恵を受けることがあるとしみじみ思います。それは、これまでの60有余年の人生の中で、その大半を郷土の偉人 前島 密先生の恩恵を受けていた（いる）ということです。

その1つは、郵便局での出会いによるものです。

腰かけのつもりが・・・

松高1年の頃、将来、弁護士になり世の中の弱い人を助けようかと、漠然と考えていました。弁護士を目指していた母方の祖父が、肺を患ってその夢を実現できなかった姿を見ていて、その志を継ごうと思っていたのです。

弁護士になるには大学に行かねばならない。しかし、家が貧しいため親父には言い出せないまま、2年生から3年生にかけて大学進学に向けた勉強をこつそりと続けていました。

3年生になって、度胸試しの国家公務員試験に受かり、まさかそれがその後の自分の人生を決めてしまうとは、夢にも思っていませんでした。留守中に、親父が郵便局からの採用意向の照会に Yes と応えたからでした。

3年生の冬、入院する羽目になって勉強できず、浪人して1年後に大学受験を再挑戦するつもりでいたので、その間、働いてお金を貯めながら勉強するのも良いかと割り切り、親父の意向を汲んで郵便局に就職しました。

その腰掛けのつもりが、40年に亘る職業（郵便局勤務）人生のスタートとなりました。

この郵便局事業を明治の初めに創設したのは他ならぬ郷土の偉人 前島 密先生（1円切手の肖像）です。「郵便の父」と呼ばれています。

数年前、生誕の地（新潟県上越市下池部）

の跡地に建つ前島記念館を訪れました。業績は広範多岐にわたり、江戸遷都の建言、鉄道事業の立案、郵便報知新聞の創刊、陸運事業の創業、盲学校の建立、早稲田大学の再建など、近代日本の礎を築かれました。その志は「天下、国家、国民のために」でした。創業の心に触れ、感動したことを覚えています。

東京新潟県人会での出会い

2つは、東京新潟県人会での出会いによるものです。

来年、東京新潟県人会は創立100周年の大きな節目を迎えます。100年の記念式典をはじめ記念祭事業を計画しており、その準備を行うということで、4月からそのお手伝いをするようになりました。

県人会の生い立ちを調べると、1880（明治13）

年2月、前島 密先生は、大倉喜八郎氏、石黒忠恵（ただのり）氏らとともに、東京新潟県人会の前身である「北越親睦会」を創設した一人であること、そして1910（明治43）年、北越親睦会は東京新潟県人会と改称され、初代会長に大倉喜八郎氏が就任されたということです。

前島 密先生が係って誕生した県人会の記念すべき100年の節目に、新潟県人及び県人会に貢献できる仕事が手伝えることに、誇りと名誉を感じています。

東京新潟県人会の理念 1. 郷土愛でつながる人の和 2. 友愛と協調 3. ふるさとへの架け橋 を心に刻み、微力ですが力を尽くしたいと思っています。

なお、前島 密先生と県人会の係り・経緯について、詳しいことを掴めないでいます。同窓会の皆さんの中で、もしご存じの方がおられたら、ぜひご教示いただけたら有難いと思っています。

墓前にお礼とご報告

先生は、84歳の1919（大正8）年に亡くなるまでの8年間、神奈川県横須賀市芦名にある別邸「如々山荘」で過ごされたということで、お墓はその敷地内（常楽寺）にあります。今年は没後90年になります。去る4月の晴れた休日、墓前にお礼とご報告をしてまいりました。



前島記念館前の前島 密の銅像



烏帽子姿の像が立つ前島 密の墓と筆者

お墓は、木々に囲まれた静かなたたずまいの中にありました。えぼし姿の像に向かい、清廉な生き方にふさわしいその姿に、改めて郷土の偉人の心に触れた思いが致しました。

うさぎ追いし彼の山小ぶな釣りし彼の川

澤田悦子 (旧坂田・高16回)

私ほど故郷を行き来している人も珍しいでしょう。還暦すぎて3年余、今でも月に2回くらいは帰っています。田舎の自然は大好きです。

広がる蒲原平野。遠くの“彼の山々”は四季折々変わらぬ姿を見せています。しかし実際には変わっているのでしょう。“小ぶな釣りし彼の川”はなくなりました。魚獲りが大好きだった私にとっては、悲しい出来事でした。高度経済成長期でした。

実家のある集落は、地形的には河岸段丘に位置し、高台は風水害から守られ、段丘崖の下側からは、菅名岳等からの覆流水が湧き出、2筋の川底からも清水となって湧き出ていました。家々は清水の井戸を持ち、夏は冷えたスイカやトマト等の美味しさを満喫したものです。

「お母さんの

小さかった頃は

ね、冬になると

“がんごつ”と

いう枯木と、こ

もで作った魚を

捕る仕掛けを川

に沈めておくの

そして寒い寒い

朝に家族で引き

上げるとバチャ

バチャバチャ…

跳ね回るハヤ、

フナ、ナマズ、

ドジョウ、

スナヤツメ、トギ。あの音、思い出すわ。でもね、今では汚れて魚獲りもできない川になってしまったわ。なんて悲しいことでしょう」こんな話をしたのは1984～5年頃のこと、川が埋められコンクリートの側溝が伏せられたのは、間もなくでした。

あれから30年近く、故郷に変化が起きているのです。今も湧き出る清水は、そこに居場所を求める絶滅危惧種のトゲソ (武蔵トミヨの仲間) をかろうじて守っていたことが解り、NPO法人の“トゲソの会”が立ち上げられ、環境保全の動きが漸く出てきたのです。昨年は低農薬・低科学肥料の“トゲソ米”が試験的に作られ、カンパを含めて販売されました。子供達、住民、市民参加型を模索し、それが少し認められ、さくらんど温泉で開かれた「湧水保全フォーラム全国大会 in ごせん」に出席された秋篠宮が立ち寄られる等、盛り上がったようです。

“彼の川”に響いた魚達の跳ねる音はもう戻ることはないでしょう。でも共に生きよう！小さなトゲソ (トギ) に愛おしさを感じる元・川東大字土掘の出身者です。



初めての経験

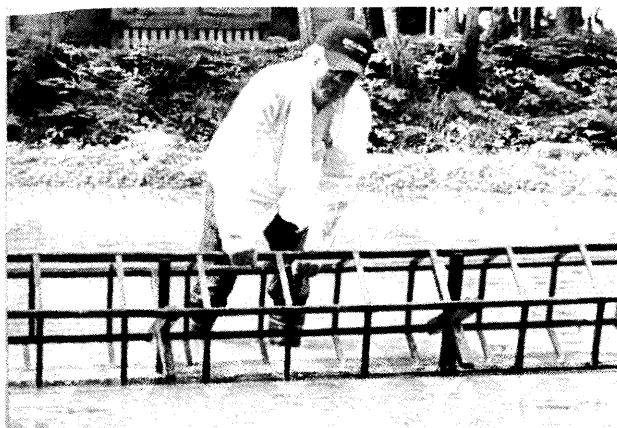
服部 修治 (高16回)

教師生活三十六年を終えて第二の人生を迎え、散歩にテニス、そして旅行にと日々を過ごしています。

一年前、テニス仲間から「友達が両親をなくし、田んぼの世話をする人がいなくなり、荒れ放題なので手伝っている」との話があり、一緒にやらないかと誘われた。

場所は新潟県小国地区！ 五月、田植えに向う。田に長靴を履いて入ったら20cmほどもぐり、靴をとられて進むも、退くも大変な作業となってしまった。

まず、杵 (わく) というものを使って田に升目 (植える位置) を付けることから始まりです。一番で田に入り六角形の杵を転がす。これがまっすぐ転がらず、向きを変えるのも重くて、これまた大変な作業であった。



慣れない姿勢のため腰が痛くなり、足は泥に絡まり、前に転がすことさえ困難な状態で田植えは始まった。

そして升目にそって、一人が五升ごとに分担して田植えをした。田植えの後、田んぼに出来た緑の線の美しさは、口では言えぬ美しさで、何度も見入った次第である。まずは乾杯！ 次は、七月頃に草取りを行った。

いよいよ九月に入り、稲刈りの時期になった。聞くところによると、稲は順調に育っているとのこと、張り切って、四人の友と大和を出発した。黄金色に輝く小国の田んぼの稲穂に、これまた感動である。

最初は、稲架 (はざ) 場づくりである。木と木の間に竹を渡し、縄でしばりつける作業を行った。次は、いよいよ稲刈りである。田んぼは水はけが悪いのか、場所によってはズブズブと沈む中、稲刈りが始まる。刈った稲をあいた場所に十字に重ね、それを今度はわらで結わく。その結わき方を覚えるのにこれまた大変であった。わらで稲をクルッと一回転させて、指でわらをはさみこむのである。しまいには指が痛くなってしまった。一日目は無我夢中で稲を刈った。二日目は、朝から腰が痛かったが人には言えず、頑張るしかないと自分に言い聞かせて稲刈りを終了させた。

私にとって、田植え、稲刈りは初めての経験であり、こんなに重労働とは思わなかった事である。又、今年も米づくりが始まるが、健康である限り続けていこうと思う。すべてに乾杯である。

日本百名山・蔵王

阿部 勇 (高9回)

仙台市に在住して45年余り、蔵王連峰には四季を通して毎年数回は登っている。奥羽山脈の南部に位置し、山形県と宮城県にまたがる。夏にはお釜見物の観光客、冬ともなれば樹氷見物やスキーヤーで賑わっている。

蔵王の山城を北から雁戸山(1485m)を中心とする北蔵王。連峰最高峰の熊野岳(1841m)やエメラルドグリーンのお釜がある刈田岳(1758m)を中央蔵王と呼び、一般に蔵王と云えばここを指す。



直径360m、エメラルドグリーンのお釜

緑と花畑の屏風岳(1825m)と第二次世界大戦中に墜落した米軍B29の慰霊碑「不忘の碑」が建つ不忘岳(1705m)を南蔵王と呼び、最も緑が濃い。このように三つに分けられる蔵王連峰は仙台市からの日帰り登山も盛んである。特に今回は、松高東京同窓会各位の気楽な健康づくりを願って、私の体験の中からお薦めのコースと観光スポットをご紹介します。

冬(1月～3月上旬)の樹氷見物。樹氷は、アオモリトドマツに過冷却の霧が着氷してモスラー姿に成長したもので、国内では八甲田山、八幡平などでも知られている。

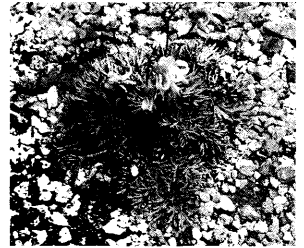


蔵王の樹氷とスキーヤー

XW 樹氷見物には長靴と防寒着が必要で、期間中は仙台駅から日帰りバスツアーが出ている。蔵王温泉からロー

プウエイを乗り継いで地蔵山(1736m)の山頂駅まで行き、下車すると目前が樹氷群だ。期間中はスキー客と樹氷見物客が大変混雑するので平日に限る。

夏はマイカーでも観光バスでも、蔵王エコーライン道路で刈田岳山頂まで行けて、軽装でもお釜見物が出る。また、エコーライン途中の駒草平では、高山植物の女王「コマクサ」を見る事ができる。さらに登山装備であれば、連峰の最高峰熊野岳まで平坦な馬の背を1時間ほどで行ける。山頂には、山形県上山市出身の医



高山植物の女王コマクサ

師でもあり歌人である斉藤茂吉先生の歌碑がある。

陸奥をふたわけざまに

聳えたまふ

蔵王の山の雲の中に立つ

秋は南蔵王の見事な紅葉に心を奪われる。マイカーで刈田峠バス停まで行き、500mほど山形寄り的大駐車場に車を置く。登山装備を整え、前山(1684m)～杉ヶ峰(1745m)～芝草平と木道を歩き、往復で約3時間程の紅葉見物が楽しめる。

簡単に紹介致しましたが、山の気候は急変し易いので雨具、登山靴、非常食は最低限準備の必要があります。

ふるさと

故郷へ贈る手紙

青木 敏和 (高18回)

三万石の城下町村松(現在五泉市城下)で昭和22年に生まれ、一昨年還暦を迎えました。現在、静岡県の函南町に移り住んで24年になります。故郷を思い浮かべると言うよりも、若い時から新潟県が好きで、上京して直ぐに「東京新潟県人会」に入会しました。昭和60年に勤務が静岡県になり、そこで「新潟県人かんなみ会」を設立し、発足時は100名を越える程の会員数でしたが次第に高齢化が進み、現在では約半分の50名程になってしまいました。しかし、24年間も続いていると云うことは、新潟県人魂があるからだと思っております。現在はその副会長をやっております。新潟県出身者の集まりには、人一倍ふるさとを愛する気持ちが強く、性分の為か、心をトキメキさせて出席しています。

今年2月に開催された静岡県内の新潟県人交流会に出席した時、NHK大相撲中継のアナウンサーでリポーター等に活躍している刈屋富士雄氏は、南蒲原郡下田村(現三条市)出身の刈屋志津雄氏のご子息である事を知りました。御殿場新潟県人会に所属されています。

五泉市には情報発信の基地として町おこしと言うか、郷土と首都圏を結ぶ情報交換親睦会ともいえる交流会が

あります。今から10年前、五十嵐五泉市長の発案で始まり、毎年11月に東京のホテルで開催されています。その名も「五泉応援団」。郷土より米、酒、餅、里芋、味噌漬、ニット製品等の物産が持ち込まれ、郷土芸能が演じられる中、故郷なまりの言葉が飛び交って、賑やかな触合いがあり、さしずめその地域毎の同期会・同窓会に似た雰囲気です。和やかな一時を過ごすことが出来ます。この情報発信の交流はとても良い事だと思っています。

故郷の白山には、高校時代に山岳部に所属していた時から20回以上登っています。慈光寺の杉並木、村松公園の桜、川内の山々と清流に心を癒され、週末には川内の山々にキャンプ登山をするのが何よりの楽しみでした。

故郷を想い出す時、私の1年先輩の加藤沢男さんを忘れる事は出来ません。体操の選手としてメキシコ、ミュンヘン、モントリオールの各オリンピックに出場して金メダルを獲得し、地元はもとより新潟県民、そして日本国民に大きな力を与えてくれた事は郷土の誇りです。当時の冬は今と比べて雪も多く、体育館も当町にとっては整ってありました。この恵まれた環境から未来のオリンピック選手が生まれた事は、大変な出来事であり名誉でもあります。

新潟県からは大勢の偉大な人達が輩出され、政財界を始め芸術、文化、スポーツの分野で大活躍されている事は大いなる誇りであります。故郷新潟をもっともっと全国に発信しPRすべき「大使」を置いたら如何でしょう。今をトキメク宮崎県に負けない美味しい米・酒・笹ダンゴ・のっぺ汁等の食文化と山・川・海の観光情報を大々的に発信して新潟県が更に発展する事を願っております。

この半世紀に三度の大地震にみまわれ、全国からの暖かいご支援を頂いて、それぞれ復興に向って頑張っております。あらゆる障壁を乗り越え、今年のトキメキ国体での成功は必ずや完達される事でしょう。その時は全国からの選手団に恩返しをする意味を込めて、新潟県民の優しさと暖かさで大歓迎をし、全国に新潟県の魅力を充分に発信して下さいようお願いして止みません。

俳句五句

白石 キヨ (高3回)

風花や ひらりと溝を 跳ぶ少女
浅春や 遠く住む娘を 見舞う旅
草萌えの 大地に試歩の 一歩かな
菟苗 孫七人の 名札立て
兄弟の 九九唱え合ふ 夏休み

サケに携わって

小鍛冶 功 (五泉市在住)

今年の春、加藤系一さんにまとも役をお願いして同期会の旅行が催され参加したが、とても楽しい一時を過ごさせて頂き大変感謝しております。その折、深見さんにサケの孵化事業に携わって居る事を告げると、是非その様子を教えて下さいとの事。そこで現状を述べてみます。

まずサケを捕獲したら、親魚の卵が熟して採卵出来るまで、池で安静に育成します。メス1匹から2500～3000粒の卵を取り出して、オスの精子をかけ受精させます。すると約120日で浮上稚魚となり、元気に泳ぎだしますが、与える餌にはビタミン、ミネラル等の栄養分がたくさん含まれていて、約1～2ヶ月間餌を与え続け、体長が5～6cm、体重が1g程度に成長したら地元の川に放流します。その後、鮭は大海原を回遊しながら成長し、3～7年後に生まれた川に戻ってきます。しかしながら鮭が戻ってくるには、鮭の生まれた川の自然環境がきれいに保たれていなければなりません。

今から3年前、近藤隆さんに漁協への入会を勧められ、Hさんと北海道千歳事業所でサケ、マス増殖の勉強をするため、前期と後期の2回学んできました。それまで県下で最低の孵化場でしたが、Hさんのサケに対する意欲と情熱は並大抵でなく、私はその姿勢にとっても感動して協力と努力を惜しまずこの事業に尽くす覚悟であります。日本海区水産研究所の清水課長もご賛同下さり、全面的にご指導頂きました。おかげで孵化率92%、90万尾の稚魚を放流することが出来て、県内漁協25ヶ所の中で1位となりました。平成21年度は孵化率が94%となり、3年連続で1位となる事が出来ました。

サケの放流事業を続けて行く中で、自然環境を改良しながら保全して行くことが、いかに大事なことであるか解って来ました。下記の小学校の生徒達に稚魚を教材として提供し、飼育放流しながら川の環境保護の大切さを学んで頂いています。(大蒲原小学校、橋田小学校、新津第二小学校、長岡小学校、五泉第一幼稚園、五泉小学校)

特に新津第二小学校の校長先生は、創立60周年記念として新津川にサケを遡上させ、自然環境の大切さを伝える為、5年生の授業に取り入れて下さいました。放流式には地元のテレビ局が取材に来ていましたが、放映された時に子供達が「大きくなって元気で帰ってきてね～」などと声をかけ、楽しそうに手を振っていたのが本当に印象的でした。

10～12月頃にはサケが戻って来ますので、帰郷された折には是非一度お立ち寄り下さい。喜んでご案内させて頂きます。

8 回 生 同 期 会

木村 孝子 (高8回)

「4月16日、新潟ホテルにて8回生同期会開催」幹事さんから待ちに待った案内が届きました。

高校を卒業して早や半世紀が過ぎましたが、この案内は私の記憶を一気に10代に戻し、桜に囲まれた校門風景、全校生徒で歌った応援歌、そんな映像にダブって浮かんだ懐かしい友の顔、顔、顔・・・。

胸は高まりました。

開催日の前日は村松まで足を伸ばし、亡き親友のお墓参りをして来ました。墓前で「明日の会に貴女が居ないのは寂しい！」と愚痴って来ました。

当日ホテルに行くと「アラーマァお久しぶり!」「貴女ぜんぜん変わってないわねー!」等、華やいだ会話でロビーは賑わっておりました。

12時、元気印を胸に各クラス毎のテーブルに着席。

鬼籍に入った39名の友に1分間の黙祷・・・。

続いて乾杯・・・。歓談・・・。

しかし、しかし・・・始まってみれば高校時代の甘い思い出は何処へやら? 老体ボヤキの始まり、始まり・・・笑いに包まれて、老いゆく我が身の不安や嘆き・・・。当たり前ですね。お互い70過ぎの、世間的にみれば押しも押されもせぬ老人の集まりですものねー。

この様な会話が盛り上がるのも幼馴染みの友の集まりなればこそですね。元気でこの会に出席出来たことに感謝です。カラオケ、詩吟ありで、男性陣にアルコールが大分回り始めた午後3時、ひとまず解散。

この会をお膳立てして下さった佐藤一彦さん、準備委員の方々、本当にありがとうございました。

——表紙について——

表紙の絵に近藤氏の説明文がある。越後平野に田植えが終わった頃、新潟県の白根市(新発田藩)と味方村(村上藩)で江戸時代から伝わる大風合戦がある。ここは全国でも珍しいケンカ風で、中ノ口川を挟んで両岸から風を揚げ、空中で絡ませて風網を切り合う。畳24枚分の大風を大人30人余りが直径2.5cmの風網を持って懸命に走る姿は勇壮、見物客の血も大いに騒ぐ。そして何故か観てるだけなのに風網で顔にアザが出来たりもする。母の実家の初夏の風物詩です。近藤喜文氏(高20回)の略歴については今年の新春号(NO.46)に掲載してありますので、ご参照ください。

雲村俊徳さん (高5回)

第9弾「江戸名所の謎」刊行

今回の「江戸名所の謎」は今まで知られざる江戸の謎を解きます。ちょっと語りたくなる江戸の見所、現場を訪ねたくなる不思議なエピソード。

- * 浅草寺の本尊を見た人はいない!?
- * 上野寛永寺は「江戸の比叡山」!?
- * 大奥には「開かずの間」があった!?

必見です! 書店 PHP コーナーで・・・

(鶴)

新潟県立村松高校第8回生同期会



第8回生71名が集う

2009年4月16日

於 新潟ホテル

第11回親睦ゴルフ会開催

平成21年4月2日、入間カントリー倶楽部に於いて松高東京同窓会の第11回ゴルフコンペが開催された。

当日は青空ながら少し肌寒く、強風のためスコアメイクがかなり難しそうだったが、とにかく桜をバックに恒例の記念撮影をして、午前8時28分に1組目がスタートして行った。強風対策のテクニックも随分と要求され、皆さん苦勞されたようである。

今回も参加者が少なくイササカ寂しい親睦会であった。ゲーム終了後、入賞者のハンデが改正され、佐藤克さんはシングルの6となったので、他の方々も次回は優勝のチャンスが大いに望める筈、健闘を祈るのみ。

今回もまた亀山氏、吉井氏のお二人には何かとお世話になり、心から感謝と御礼を申し上げたい。



第11回ゴルフコンペ

成績（敬称略）

優勝・佐藤 克、準優勝・鈴木 理恵子
3位・大橋 貞夫

参加者名（順不同・敬称略）

1組 鈴木 輝雄（高8）、片柳 ムツ（高8）
佐藤 克（高21）、鈴木 理恵子
2組 亀山 知明（高3）、金子 鶴男（高5）
吉井 清（高8）、大橋 貞夫（高10）

第12回親睦ゴルフ会のお知らせ

平成21年10月29日（木）、入間カントリー倶楽部に於いて第12回親睦ゴルフ会を開催いたします。

現在、シングルプレーヤーが二人居られますが、何も恐れることはありません。それぞれ正当なハンデが与えられますのでご安心下さい。老若男女を問わず大勢の方々に意地と名誉をかけてご参加いただき、各賞に奮って挑戦して頂きたいものと念願して居ります。

腕に覚えがあっても無くても挑戦しようと決意された方は下記までご連絡下さい。

吉井 清（高8回）Tel & Fax 042-527-6482
亀山 知明（高3回）Tel 042-572-5096

編集後記

郷里村松の「松乃屋」でのクラス会から十六年、古希を迎えた十九名の面々が集まったのは、十日町の当間（あてま）高原リゾート・ベルナティオ。

ホテルに着くとロビーには新潟組が一足早く着いていて、やあやあ〜と声を掛け合ったものの、暫し名簿と交互ににらめっこ。やがて部屋割りが決まっても六時の宴会まで待ちきれず、男子九名が一室に集まり酒盛りとなった。幹事が出欠をとる際に仕入れた同級生の情報を肴に「こんぶ焼酎」などをチビリチビリ飲んで居ると、松高時代の事が走馬灯のように想い浮んでくる。

物故者に黙祷のあと宴会が始まったが、飲めば飲む程に顔と名前が一致してくるから不思議である。まだまだ認知症では無さそうだ。それにしても皆さんお若い！そして元気！たまげた高齢者である。

次の日は直江兼続のふるさと越後上田庄（南魚沼）をバスで巡る。幼少時代、景勝と兼続が住持の通天存達から学んだ雲洞庵は杉の巨木に囲まれ、赤門から続く石畳の下には法華経が一石一字づつ刻まれていて、踏みしめてお参りすると罪業消滅、万福多幸のご利益があるとされている。当日お参りした同級生は全員が身も心も清められ、幸多い人生を送ることが約束された。同慶のいたりである。

原稿送付先

TEL 158 0094

世田谷区玉川四二〇一八

大橋 貞夫 宛

E-mail sadao-o@gb4.so-net.ne.jp

広報委員会 大橋

平成21年7月 第47号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏（旧中27）書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

東京同窓会事務局 〒201-0005 狛江市岩戸南2-14-14

電話・FAX 番号 03-3488-2117（石黒四郎）



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	県立村松高等学校
浮田 辰平 作詞 曲は 旧軍歌より 1. 塵の巷を遠ざけて 雲たちまよふ白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流にも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰が心ぞや 5. 夫れ英雄も人傑も 人の子吾等が類なり あゝ松城の健男児 奮ひて起つべし諸共に あゝ松城の健男児 勇みて起つべし諸共に	相馬 御風 作詞 大和田愛羅 作曲 1. 愛宕の山のむら松の みどりの色の常盤なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雪にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. その名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂ふごと 気高き姿保たばや	相馬 御風 作詞 中山 晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなざれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生気湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
第一応援歌	第二応援歌	第三応援歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高鳴る血潮 たたえつゝ春の日廻る 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て 花紅の香に匂ふ 誉れは高き松城の 健児が胸に血や躍る 2. 我等がえらぶ丈夫の 誉れは海の湧くがごと 望みは雲の行くがごと 月の桂をな譲りそ 栄ある名をぞとこしへに	1. 松城健児六百が 祖国の為に剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り 3. 今壮快の晴戦 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り